

平成 30 年度第 1 回安芸地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 30 年 8 月 31 日（金） 9：30～12：00

場所：奈半利町防災センター 2階 大会議室

出席：委員 24 名中、19 名が出席（代理出席 3 名含む）

- 議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
(2) 地域アクションプランについて
第 3 期安芸地域アクションプランの進捗状況等について
(3) 産業成長戦略について
1) 移住促進の取り組みについて
2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事 (1) (2) (3) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

- (1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
意見交換等、特になし。

- (2) 地域アクションプランについて

(No. 18 安芸地域の観光振興の推進)

(小松委員)

来年度の自然・体験型観光キャンペーンに合わせて、休止中のライダーズイン室戸をバイクライダーだけでなく家族連れなど様々な方々が宿泊できる施設に改修し、一層の交流人口の拡大につなげていきたいという思いがある。推進力強化のためにも地域アクションプランに位置付けていただけるのかどうかお尋ねしたい。

(鍵山地域産業振興監)

アクションプランの追加・修正については、次回の 2 月の会議で議論していくことになる。それまでに各市町村と調整させていただき、来年度の自然・体験型観光キャンペーンに向けてアクションプランの追加・修正について検討をしていきたい。

ライダーズインについては、今年度は現状の安芸地域全体の観光振興に関する地域アクションプランの中で対応したいと考えている。

(その他)

(東谷委員)

ふるさと納税制度が継続されるということになると、この制度をうまく活用した地域が活性化して、あまり興味を持たなかった地域が置いていかれるということになる。この制度の上手な活用や積極的な利用に向けた指導等について、県としてどのように捉えているか。

(鍵山地域産業振興監)

ふるさと納税については、奈半利町をはじめ、県東部の市町村は積極的に取り組まれていると思う。この制度がいつまであるかは不透明な部分もあるので、そのことを念頭に置きながら、ふるさと納税の制度があるうちに、その寄付金を活用して地域のブランド化に力を入れていく等、ふるさと納税に頼らない産業構造を作っていくような取り組みを支援していきたい。

(3) 産業成長戦略について

(山手委員代理)

安芸市には、伊尾木洞や弥太郎生家、野良時計等の観光資源が数多くあるが、観光に来た方にどうやってお金を落としていただくかという悩みがある。地元で消費をしてもらうせっかくの機会を逃さないよう、地元での経済効果の生み出し方を模索しており、良い知恵があれば教えていただきたい。

(瀨田観光政策課課長補佐)

実際にその現場でお金を落としてもらい、経済効果をどう生み出すのかというところは大変難しい問題である。具体的な例でよくあるものとしては、その場での物販や駐車場の管理費等がある。

伊尾木洞であれば、ガイドツアーなど、観光ガイドの活用もあり得ると思う。

(横山座長)

移住者の属性のうち移住後の就業等の状況をみると、今年の資料では一次産業は27組9%となっており、前年の68組24%と比べて極端に少なくなっている。

この原因等を把握していれば、教えていただきたい。

(吉良移住促進課課長補佐)

移住者の傾向は、年によって多少ばらつきがあると思う。県としても一次産業は重要な産業であり、担い手確保へとつなげられるよう各部署と連携して就業者を増やしていくようにしたい。

(山手委員代理)

移住促進は大いに結構なことだと思うが、地元の若者の地域外への流出を防ぐ施策もあってほしい。

(以上)